너를 기다리는 자리

君を待っていた場所



글·자막 호흡 교정판 v03 · 기존 삽화 재배치

F01 아직 아무도 없던 때



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

아직 아무도 없던 때였어요.

하늘도 비어 있고
땅도 비어 있었어요.

바람이 불어도
머리카락을 날릴 아이가 없고,
아침이 와도
눈을 비비며 일어날
얼굴이 없었어요.

하늘부모님은 생각하셨어요.
“아, 외롭다.”

들려주고 싶은
이야기는 많은데,
들어 줄 이가 없었어요.

日本語

まだ、だれもいなかったころの
お話です。

空も、地面も、からっぽでした。

風が吹いても、髪をなびかせる子
はいません。
朝が来ても、目をこすって起きる
顔はありませんでした。

天の父母様は思われました。
「ああ、ひとりぼっちだ。」

話したいことは、たくさん
あります。
でも、聞いてくれるだれかがいま
せんでした。

F02 첫 번째 자리



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

그래서 따뜻한 빛을 만들고,
부드러운 바람이
불게 하셨어요.

시냇물이 졸졸 흐르고
나무와 풀꽃이
자라나게 하셨어요.

그리고 숲 한가운데 가장
양지바른 곳에
둥근 나무 식탁을 놓았어요.

누군가 찾아와 마주
앉기를 기다리는
첫 번째 자리였어요.

日本語

そこで、あたたかな光をつくり、
やわらかな風が吹くようにさ
れました。

小川がさらさら流れ、
木や草花が育つようにされました。

森のまんなかの、いちばん日当た
りのよい所に、
丸い木の食卓を置かれました。

だれかが来て、向かい合って座る
のを待つ、
最初の席でした。

F03 현관 앞의 도토리



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

연두집 현관문이 열렸어요.

“지성아, 빨리 나와!
저기 못 보던 길이 생겼어!”

형 우성이가 운동화부터
꿰어 신고
씩씩하게 앞장섰어요.

동생 지성이는 현관 계단 앞에서
잠시 걸음을 멈추었어요.

“형아, 잠깐만.
여기 도토리 모자 좀 봐.”

지성이는 반질반질한 도토리
모자를 주워
주머니에 쏙 넣었어요.

日本語

若草色の家の玄関が開きました。

「ジソン、早くおいで！
あそこに、見たことのない道
がある！」

兄のウソンは、まっ先に運動靴
をはいて、
元気に先頭を歩きました。

弟のジソンは、玄関の段の前で、
少し立ち止まりました。

「お兄ちゃん、待って。
このドングリの帽子を見て。」

つやつやした帽子を拾って、
ポケットに、すぽんと入れました。

F04 길 끝의 식탁



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

“형아, 여기 봐.”

지성이가 우성이의 옷자락을
살며시 당겼어요.

풀밭 너머 오솔길 끝에
둥근 나무 식탁이 서 있었어요.

식탁 위에는 작은 나무 컵들이
나란히 놓여 있었어요.

日本語

「お兄ちゃん、ここ見て。」

ジソンが、ウソンの服のすそを
そっと引きました。

草原の向こう、小道の先に、
丸い木の食卓がありました。

食卓の上には、小さな木
のコップが
並んでいました。

F05 풀숲에서 온 친구들



한국어

그때 풀숲 사이로
동글동글한 친구들이 하나둘
걸어 나왔어요.

조약돌 바구니를 든 해달,
목에 작은 나뭇잎을 붙인 초록
공룡 뇨끼,
둥근 모자를 쓴 모리,
그리고 고소한 빵 냄새를
풍기는 보리였어요.

“안녕? 너희도 이 길로 왔어?”
우성이가 반갑게
손을 흔들었어요.

日本語

そのとき、草むらの間から、
丸っこい仲間が、一人、また一人
と出てきました。

小石のかごを持ったラッコ。
首に小さな葉をつけた、緑の恐竜
ニョッキ。
丸い帽子のモリ。
そして、香ばしいパンの匂いをさ
せたボリです。

「こんにちは。君たちも、この道
から来たの？」
ウソンが、うれしそうに手を振
りました。

기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

F06 아침밥과 물



한국어

해달은 식탁 위의 컵을
가만히 들여다보았어요.

“여기 내 아침밥을 넣으면
딱 좋겠다.”

“물 마시는 컵 같은데?”
우성이가 말했어요.

해달은 컵을
다시 들여다보았어요.
“그럼 아침밥 먹고
물 마시면 되지.”

日本語

ラッコは、食卓のコップを
じっとのぞきました。

「ここに朝ごはんを入れたら、
ぴったりだ。」

「水を飲むコップみたいだけど？」
ウソンが言いました。

ラッコは、もう一度のぞきました。
「じゃあ、朝ごはんを食べてから、
水を飲めばいいね。」

기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

F07 함께 먹을 빵



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

보리가 자기가 들고 온
빵 바구니를
식탁 한가운데에 내려놓았어요.

갓 구운 빵에서
하얀 김이
모락모락 피어올랐어요.

“다 같이 먹으려고
조금 더 구워 왔어.”

보리는 가장 예쁘게 부풀어
오른 빵을
우성이와 지성이 앞에
먼저 놓아주었어요.

日本語

ボリは、持ってきたパンのかごを
食卓のまんなかに置きました。

焼きたてのパンから、
白い湯気が、ほわほわ上がります。

「みんなで食べようと思って、
少し多く焼いてきたんだ。」

いちばんきれいに膨らんだパンを、
ウソンとジソンの前に、先に置
きました。

F08 뇨끼가 만든 그늘



한국어

초록 공룡 뇨끼는
식탁 옆 풀밭에 배를 깔고
낮게 엎드렸어요.

발치의 나뭇잎 위를 지나가던
달팽이 느루에게
시원한 그늘을 만들어
주려는 거였어요.

“고마워, 뇨끼야.
네 배 아래는 참 시원하다.”

느루가 천천히
더듬이를 움직이며
인사했어요.

日本語

緑の恐竜ニョッキは、
食卓の横の草に、おなかをつけて
低く伏せました。

足元の葉の上を通るカタツムリ
のヌルに、
涼しい日陰をつくってあげる
ためです。

「ありがとう、ニョッキ。
おなかの下は、涼しいね。」

ヌルは、ゆっくり触角を動かして、
お礼を言いました。

기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

F09 다 같이 보는 꽃



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

모리가 노란 들꽃 한 송이를
식탁 가운데에
조심스럽게 놓았어요.

“이건 누구 거게?”
지성이가 눈을 동그랗게
뜨고 물었어요.

“누구 한 사람 거 아니야.
우리 다 같이 보는 거지.”

모리가 둥근 모자 속에서
환하게 웃으며 대답했어요.

日本語

モリが、黄色い野の花を一本、
食卓のまんなかに、そっと置
きました。

「これ、だれのもの？」
ジソンが目を丸くして聞きました。

「だれか一人のものじゃないよ。
みんなで見るんだ。」

モリは丸い帽子の中で、
にっこり笑って答えました。

F10 피오의 자리



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

작은 노란 새 피오가
식탁 가장자리에
폴짝 내려앉았어요.

“들었지? 나도 여기 있어!”

지성이가 자기 빵에서
작고 보드라운 부스러기를 떼어
피오 앞에 놓아주었어요.

“피오야, 너도 같이 먹자.”

日本語

小さな黄色い鳥のピオが、
食卓の端に、ぴょんと降りました。

「聞こえた？ ぼくも、ここに
いるよ！」

ジソンは、自分のパンから、
小さくてやわらかなかけら
をちぎり、
ピオの前に置きました。

「ピオ、一緒に食べよう。」

F11 처음 만난 식탁



한국어

아이들과 친구들은
둥근 식탁에 빙 둘러앉았어요.

처음 만난 자리였지만
오래전부터 알고 지낸 사이처럼
웃음소리가 끊이지 않았어요.

나뭇가지 사이로 내려온 햇살이
아이들의 어깨를 포근하게
감싸 주었어요.

日本語

子どもたちと仲間は、
丸い食卓を、ぐるりと囲んで座りました。

初めて会ったのに、
ずっと前から知っていたように、
笑い声が絶えませんでした。

枝の間から差す光が、
子どもたちの肩を、やさしく包みました。

기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

F12 다음 친구의 의자



기존 삽화 참고 · 세부 장면 재작화 전
以前の挿絵を参考表示・細部の描き直し前

한국어

집으로 돌아갈 시간이 되자,
우성이와 지성이는 일어선
자리의 의자를
단정하게 정리해 두었어요.

“다음에 올 친구도
기분 좋게 앉아야 하니까.”

햇빛은 해가 저쪽 나무 뒤로
넘어갈 때까지
그 자리를 떠나지 않았어요.

그 자리가 얼마나
오래된 마음인지,
아이들은 아직 몰랐어요.

日本語

家へ帰る時間になりました。
ウソンとジソンは、立った席
の椅子を、
きちんと戻しておきました。

「次に来る友達も、
気持ちよく座れるように。」

太陽が向こうの木の後ろへ
沈むまで、
光は、その席を離れませんでした。

その席が、どれほど前からの思
いなのか、
子どもたちは、まだ知りませ
んでした。